

「農業及び産業振興」分科会 農業政策提言書

研究テーマ「持続可能な阿智村の農業と、農地・地域を守るために」

リーダー 熊谷 智徳

委員 熊谷 恒雄 委員 吉村 金利

1. 現状認識・提言の趣旨と目的

阿智村の農業は、高齢化と担い手不足、それに伴う遊休農地の増加という極めて深刻な課題に直面しています。特に中山間地域における農地の荒廃は、単なる産業の衰退にとどまらず、土砂災害防止機能の低下や、水源涵養（かんよう）機能の喪失、さらには美しい星空と花桃を支える地域景観、里山景観の崩壊へと直結します。

本提言は、最重要である農地を将来にわたり維持し、持続可能な農業を実現すること、その具体策として、村の基盤作物である「米」、観光と親和性の高い「そば」、そして付加価値化が狙える「とうもろこし」に政策の重点を置くことで、「農村基盤の維持」「農業の省力化」「稼げる農業」を同時に達成し、ひいてはこの振興策が、他品目へも波及し、牽引していくことを目的とする。

2. 提言

1) 持続可能な農業を支える共通施策、スマート農業の導入

この2月に、先行して政策提言をしましたが、中山間地特有の傾斜や小規模分散型の圃場（ほじょう）に対応するため、個人の負担を軽減するスマート農業の導入、推進を進める。

① 共同利用型「農業用ドローン」の導入支援と体制構築

- ・ 施策内容：村や産業振興公社、農協（JA）、または直接支払い組織や、多面的機能組織が主導となり、病虫害防除や肥料散布を効率化する農業用ドローンの導入、推進。
個人の資格取得費用や機体購入への補助制度を創設する。
- ・ 効果： 高齢化が進む担い手の作業負担（特に夏の防除作業）を大幅に軽減し、1人当たりの管理可能面積を拡大させる。

② 鳥獣害対策のIoT化と緩衝地帯の管理

- ・ 施策内容：3品目ともに甚大な被害をもたらすシカ・イノシシ・サル対策とし

て、IT技術を活用した侵入検知センサー付き防護柵の設置を支援。また、目撃情報、追い払い等のアプリ作成支援、森林と農地の境界（バッファゾーン）の草刈り・整備への活動交付金を上乘せする。

- ・効果：鳥獣害対策の負担の軽減、被害の削減。

2) 品目別：具体的な支援策・振興案

① 米（水田維持と環境保全）

水田は単なる生産の場ではなく、村の水害を防ぐ天然のダムであり、美しい里山景観の主演です。

- ・「阿智の星空米（仮称）」としてのブランド化と販路開拓：地産地消

提案：清らかな水と昼夜の寒暖差を生かした高品質な米を、村の「星空ブランド」や地元の観光業（昼神温泉郷など）と完全に結びつけたプレミアム米として再定義。旅館・ホテルでの積極採用や、ふるさと納税の返礼品としての露出を強化。

- ・環境保全型農業への直接支払い上乘せ

提案：化学肥料・農薬を低減した栽培方法、または生き物を育む農法に対して、村独自の「環境貢献手当（上乘せ交付金）」を支給し、生産者の手取りを確保する。

- ・大規模経営農家支援

提案：水利組合の協力、理解を得て水利作業の軽減、スマート農業、デジタル化による水管理の支援。

- ・水田の賃借料補助。

② そば（観光利用・遊休農地解消）

そばは痩せた土地でも育ち、栽培期間が短いため、遊休農地の解消（粗放栽培）に最適な作物です。

- ・遊休農地を活用した「そば生産集団」の育成

提案：耕作放棄地になりそうな農地を、村が仲介して集落営農組織や意欲のある生産者に集約、そばの集団栽培を支援する。

- ・そば用生産機械等の導入支援、補助。

- ・「地産地消・観光連動」の循環モデル

提案：観光客が訪れる村内の飲食店やそば処とのマッチングを強化。「新そば」を核としたイベント（星空×新そばまつり等）の開催支援、およびガストロノミーツーリズム（地域の食文化を学ぶ旅）の誘致。

③ とうもろこし（高収益化と夏・秋の観光資源）

とうもろこし（生食可能な甘味種など）は、夏の観光シーズン（クールケーショ
ン、高原観光、キャンプ等）と合致し、直売所で極めて高い人気を誇る高収益作物
です。

- ・ブランド品種の選定と「朝採れ」流通システムの確立

提案：阿智村の標高差（寒暖差）がもたらす「圧倒的な甘さ」を強みにした、統
一ブランド（浪合星空コーン）などを指定。最も甘みが強いとされる「朝
採れ」をその日のうちに昼神温泉の朝市や周辺の直売所、主要都市へ即日
配送する仕組みへの物流補助、支援。

- ・6次化、高付加価値化への支援

提案：とうもろこしの販路、販売の可能性を拡大するため加工事業への支援。
フリーズドライとうもろこし、ペットフードとうもろこしへの支援。

3）財源・推進体制の提案

項目	提案内容
財源の確保	国の「多面的機能支払交付金」や「中山間地域等 直接支払交付金」を最大限活用。さらに、村のふ るさと納税の使途に「阿智の農地・星空の景観を 守るプロジェクト」を明記し、全国からの寄付金 を直接の財源として充当する。
官民一体の実践、推進組織	行政、産業振興公社、農協（JA）、観光局、集 落営農組織、そして若手生産者が一堂に会する、 「阿智村の基盤維持、主要品目栽培推進協議会 （仮称）」を設置するなど、情報交換、ブランド マーケティングの一層の研究、検討を進める。

3. 結び

農地を守ることは、阿智村の「人」を守り、観光資源である「美しい景観」を守り、ひいては「村の誇り」を守ることに他なりません。生産者が誇りを持って耕作を続けられ、次の世代が「これなら継ぎたい」と思える農業環境を整えるため、現場の声を十分に聞く中で、本提言に基づく予算措置と制度設計を求めます。

農業は産業であると同時に、阿智村の暮らしと景観を支える基盤です。本提言が将来にわたり持続可能な農業を推進するための指針となることを期待します。